

科目ナンバリング		U-LAS54 10009 LJ12							
授業科目名 <英訳>	メディアを担う人々 People working in media			担当者所属 職名・氏名	文学研究科 教授 喜多 千草				
群	キャリア形成科目群		分野(分類)	その他キャリア形成		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・後期		曜時限	火3		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
この授業は毎回、マス・コミュニケーション・メディアを含む「情報伝達の媒体を担う、あるいはデザインする仕事、または情報伝達のコンテンツの企画・制作を生業にしている人々」をゲストスピーカーに迎える。キャリアとしては、いわゆる「メディア系」と分類される、こうした職業についている人々が、自分が属する媒体について、どのような社会的役割があると考えているのか、また仕事のやりがいや苦労はどういったものなのかをお話しいただき、受講生からの質問に答えていただく。こうしたやりとりを通じて、かなり多様な「メディア系」の職業のありように触れ、多メディアの時代におけるメディアの役割を理解することを目的とする。									
【到達目標】									
現代社会の多様なメディアのありようを理解し、メディアの社会的・文化的意義について考察できるようにする。									
【授業計画と内容】									
第1回 オリエンテーション 以下、各回の順番や回数は、ゲストスピーカーの出講可能日程により変動する。 授業回数はフィードバックを含め15回とする。									
ジャーナリストをゲストとする回(3~5回) 新聞社、放送局、ネットメディア、雑誌等で働く人々の担当回(報道の意義や情報の信頼性を背景にした、仕事のありようについてお話しいただく。)									
コンテンツ制作に関わっている人々をゲストとする回(5~8回) テレビ・ラジオ番組、インターネット動画配信、雑誌、Webサイト等のコンテンツ制作を担う人々の担当回(コンテンツ制作に求められる同時代性や、多メディアに展開するコンテンツの台頭などを背景にして、仕事のありようについてお話しいただく。)									
メディアのインフラを運営している人々をゲストとする回(2~4回) マスメディアからネットメディア、地域メディアまで、情報伝達媒体を担う人々の担当回(多メディア・多チャンネルを背景にして、担っているメディアの特性や存在意義、それを担う仕事の実際についてお話しいただく。)									
毎回、授業の最初に、前回のレスポンスへのフィードバックを行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
平常点評価(2段階評価) (各回のゲストスピーカーとのディスカッションへの参加状況30%、各回のレスポンスの提出状況およびその内容70%)									
-----メディアを担う人々(2)へ続く-----									

メディアを担う人々(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

ゲストスピーカから事前に予習しておくべき内容が示されることがある。(例:映像作品の鑑賞、執筆記事の読了等)
コンテンツの種類によって予習の所要時間はさまざまであるが、最大で1時間程度と見込まれる。また追加のコンテンツ等の内容を踏まえてレスポンスを書くように求められる場合もある。この場合も最大で1時間程度の所要時間を見込んでいる。

[その他(オフィスアワー等)]

履修人数は、開講する教室(文学部第3講義室)の定員(180名)で制限する。

[実務経験のある教員による授業]

分類
オムニバス形式で多様な企業等から講師・ゲストスピーカー等を招いた授業科目
当該授業科目に関連した実務経験の内容
オムニバス形式で多様な企業等から講師・ゲストスピーカー等を招いた授業科目
実務経験を活かした実践的な授業の内容